



水車場東方のながめ 田畠の前方に見える雑木林は旧古川の自然堤防。ここを水車の排水が流れる。この辺りは県道（4車線）新設により様変わりする。2020年6月29日

高原水車友の会通信 (第15号)

明るい新年を願いつつ…

高原水車友の会
高松市六条町672
高原水車場



題字 森佐知子
カット平田眞咲



旧吉川の浚渫作業 高原水車友の会



水車壳渡約定証 明治35(1902)
年2月16日 【河部百太郎(壳
り主)より高原太吉宛】 水車
の建物2棟と器械道具一切を
500円で高原太吉に壳却する旨
の証書

高原太吉殿

河部百太郎印

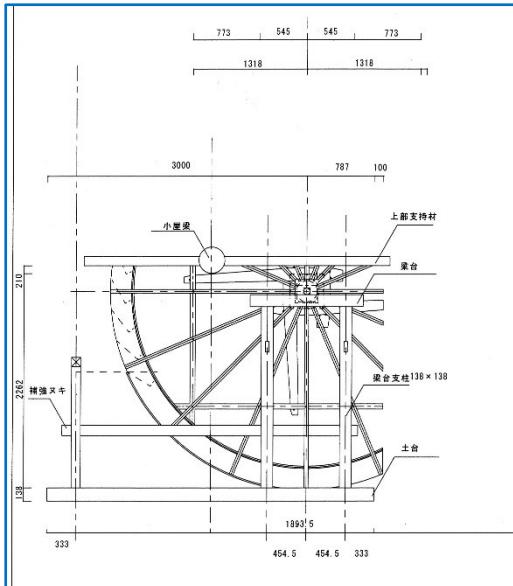
右頭書ノ金額ヲ以テ壳渡申候処實正也
残金ノ義ハ当式月三十日限り受取之上水車相
渡可申候尤モ敷地貢米之義ハ壹反歩^二付一石式
斗之事為後日約定証依テ如件 但シ敷地五畝歩
明治三十五年二月十六日 河部百太郎印

一金五百円也 内手付金参拾円也

印紙 水車壳度約定書 ひとくわく度約定書 高原水車收賄資料より

印紙 水車壳度約定書 ひとくわく度約定書 高原水車收賄資料より

水車場周辺風景・水車写真パネル	1
ひとくちメモ	
旧水車の展示に向けて	2
搬送装置稼働に向けて	3
高校生を迎えて・水車ニュース	5
公開日にたくさんの方々を迎えて	6
もち麦を収穫・蕎麦蒔き	7
屋根瓦吹替・活動日誌	8



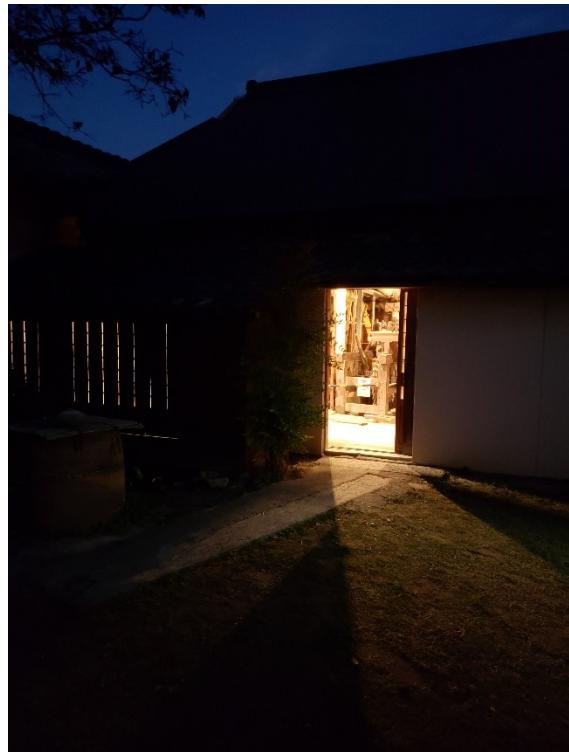
8個の輪板ユニットと底樋
(下)は別方向から見た輪板



(上)「水車保存梁台図」(部分) 野瀬秀拓氏作成

(右上・下)取り外された旧水車の現状

昭和42(1967)年吉田久吉氏製作の水輪・心棒・底樋などは痛みが激しい。文化財になっているこれらを、重量を計算しながら梁台を追加補強し、水車の構造がわかるように展示する予定です。



(左)夜の水車場西口

(中) 条文化振興財団助成金をいただき、水車場内外に安全な照明器具を設置できま

した。2020年6月)
(上)水車場西入口
(右)水車写真パネルで修復過程を解説。



搬送装置稼働に向けて詳しく調査中

石臼で挽かれた小麦は、小麦粉と皮（こかす・ふすま）が一緒になつて、「数珠繰り」（搬送装置）と言われるコンベアーの様なもので、

ガンド（行灯篩）へ運ばれる。目の細い絹布が貼られた篩の動きによつて白い小麦粉が振り落され、残つた粗い粉と皮はもう一度運び上げられ、小屋の天井まで到達する。そこから円錐形の独特な形をした長い漏斗に落とされ、四角錐状の漏斗の中の布袋に一定量貯められ、徐々に石臼に入り、またすりつぶされる。そして再び搬送されて「ガンド」にかけられる。この作業は、四～五回繰り返され、だんだん量が減り軽くなるので石臼の回転は速くなり、作業は終わる。水車小屋の主人が寝てゐる間に仕事をしてくれるありがたい装置であったそうだ。

この装置が動いていたのは、高原水車では昭和三十（1959）年頃までと思われる。クルクル回る行灯篩の下に落ちた白い粉を、長い柄のついた道具でかき寄せていた祖母の姿があつたような気がする。その後、工場の別位置に電気で動く製粉機と精米機が設置され、その稼働の音や振動は長く記憶に残つてゐる。

今、復元しようとしている「ガンド」と「数珠繰り」は、家全体が一つの器械であり、今ではコンパクトな製粉装置がこんなに大きな構造物で出来ていたのかと驚くが、この辺りの粉

ひき水車では当たり前の光景だったのである。
(平田) — 池森先生の監修を得ました。



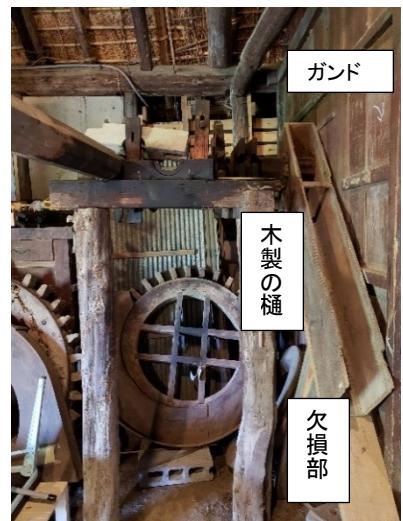
数珠繰りの模型(野瀬大工)



石臼から出てきた小麦粉がガンドの入口まで登る装置(数珠繰り)。木製の桶の中を粉が引き上げられる。木のコマが掛かる突起の付いた駆動車が見えるが、数珠繰りの綱やコマ板は欠損している。



突起の無い遊び車の復元試作



10角形のガンド木枠を取付け



ガンドへの入口

数珠繰りの計測をする池森教授
2020.6.10



池森先生と懇談しながら一服

残っている数珠繩りの綱と小板のコマ(ガンド出口から長い漏斗までのもの)



四角漏斗の内側に残る布の切れ端

二番石臼用四角錐漏斗の内側
(中央は落下量調節器)

長い漏斗の容量の測定(手作りの紙物差し利用) 2020.6.27



水車の動力を伝える駆動軸が部屋の中央を水平に横切っている。この軸が数珠繩り(搬送装置)を動かし、ガンドと連動して回転する。

高校生を迎へて

2020年5月10日・7月26日

県立高松桜井高校写真部と新聞部の学生さんが顧問の先生と一緒に訪問されました。



水の取り入れ口を見ながら説明を受ける



水路に降りて排水溝を撮影



高校生が来てくれて
うれしい!
近いから
また来てね



先生は水中生物を採取?

★ロロ十禍による小麦粉不足で「千年前の水車」大活躍(英国)

英國では、ロロ十禍により小麦粉供給をサボートし需要が急増している。1000年の歴史を持つ水車製粉所が数十年ぶりに再稼働し、地元の小麦粉供給をサポートしている。(北アイルランド製粉協会)

歴史あるスター＝ハスター＝ハーミー製粉所が再稼働——セント・アンドリュー・カーリー(イギリス)

池森寛名誉教授提供

日本の水車・世界の水車【パート

★磁器原料生産の歴史を伝える 瑞浪の坂島さんが千本きね修復(中日新聞 2020.11.22) 市陶磁資料館で保存された「千本きね」を修復。水車の力で磁器の原料を作る道具で、現在残るのは一基だけ。美濃焼の発展を支えた技術を知りませ。幕末に発明されたこの装置が、かつては一つの水車で最大30本のきねを動かし、小里川に100台もの千本きねがあったという。電動粉碎器により次第に姿を消した。

★ロロ十禍による小麦粉不足で「千年前の水車」大活躍(英国)

英國では、ロロ十禍により小麦粉供給をサボートし需要が急増している。1000年の歴史を持つ水車製粉所が数十年ぶりに再稼働し、地元の小麦粉供給をサポートしている。(北アイルランド製粉協会)

歴史あるスター＝ハスター＝ハーミー製粉所が再稼働——セント・アンドリュー・カーリー(イギリス)



公開日にたくさんの方々を迎えて
公開日は毎月末土曜日です。12月は休み



婦人会の方や俳句同好会の方を迎えて



和歌山県熊野古道大辺路沿いで「すさみ線香水車」復元に取り組むご家族一行を迎えて。野瀬水車大工は和歌山にも出かけています。(2020 年 10 月 31 日写真上下)



水車の動力で小麦粉を挽いたり（上）製麺機でうどんを作ったり（下）、見学の方を歓迎しました。まだ手作業が主力です。



友の会がもち麦を収穫

2020 年 6 月 5 日



紫色に稔った収穫前のもち麦



小麦

もち麦



収穫したもち麦を皆さんに分けます。
もち麦を使って白石さんがおいしい
パンを届けてくれました。写真右上下



今年も大豊作！！



綿の花 8月 9日



8月 31日



麦畑に雉が来ます



蕎麦畑 10月



真夏に蕎麦種蒔き 8月 29日





毎月公開日に周辺の草刈りなどの作業もします。墓地横の旧古川水路の草刈り。



トイレの屋根瓦修繕(請川窯業さん) 北側屋根だけで、丸瓦 170枚・平瓦 216枚

活動日誌 2020年夏秋

5/10	高松桜井高校写真部の皆さん 見学に
5/11	中止になつた本年度総会資料 214部を会員へ送付
5/23	製粉搬送機構(数珠繰り) 調査に 池森先生・野瀬大工が来訪
5/30	照明装置改善のため下見検討 もち麦収穫 150キロ
6/10	再び搬送装置調査分析報告 池森先生・野瀬大工
6/11	照明工事に中條文化財団助成 山地電機さんと友の会協力設置
6/27	2019年度公益信託大成建設自然・歴史環境基金活用報告書提出
7/10	公開日 製粉装置漏斗の容量計測
7/25	福武財団助成活動掲示板に「動き始めた水車」を掲載
7/30	公開日 高松桜井高校新聞部来訪 野瀬大工和歌山行き途中に来訪
8/8	先代水輪の展示場設計図が、野瀬大工より届く
8/10	公開日 蕎麦を蒔く 「日本農業新聞」の取材を受ける。野瀬大工来訪 蕎麦「高嶺ルビー」が瀬戸内海高見島へ渡り、種蒔き
9/5	公開日 樹木伐採・蕎麦畑整備

【後記】 「新型コロナウイルス」の危険が世界を覆つっています。関東から香川県へ帰るのは、とても心配です。人類の歴史の一コマとして、犠牲も最小限で通り過ぎてほしいと思います。制限の多い生活となつていますが、日々無事に過ごされますようお祈りいたします。来年もよろしくお願いします。友の会会長 平田恵美



高原水車友の会 連絡先
0877(33)4601 堀家
高
原
水
車
友
の
会
連
絡
先
堀
家